

## 第2回恵庭市総合計画審議会 会議録

日 時：平成22年8月4日 14:00～16:15

場 所：恵庭市役所3階 第2・3委員会室

出席者：委員13名、副市長、事務局4名、部長8名（企画振興部長、地域整備室長、生活環境部長、保健福祉部長、子ども未来室長、経済部長、建設部長、教育部長）、課長1名（都市計画課長）

### 1. 開会

### 2. 委嘱状交付、委員自己紹介

～副市長より、高野委員に委嘱状を交付後、高野委員より自己紹介～

### 3. 会長挨拶

～会長より開会にあたっての挨拶～



### 4. 基本計画策定に係る基本的な考え方について

～事務局より、総合計画の体系・特徴・検討体制・検討資料の構成・市を取り巻く現状など後期基本計画策定にあたっての基本事項を説明～

### 5. 都市計画マスタープラン地区別懇談会の開催状況について

～都市計画課長より、都市計画マスタープラン地区別懇談会での主な意見を報告～

### 6. 審議

(1) 基本目標1「水と緑と花に彩られた魅力あるまちづくり」について

(2) 基本目標2「安心して健康に暮らし子どもを大切にすまちづくり」について

～事務局より基本目標1及び基本目標2を説明。以下の質疑が行われた～

#### ○後期計画素案の改定について

(委員)

後期計画で、前期取組みの継続・拡充・廃止の判断基準は。

(市)

前期5カ年の取組みにもとづいて修正記載しているが、終了したものは省き、今後進めていかなければならないものは、下線部分で付け加えている。

## ○北海道総合計画と後期基本計画との関係について

(委員)

北海道総合計画は、後期基本計画と基本的な考え方についての関連はあるか。

(市)

恵庭市の総合計画は市の将来に向けての計画で、道の計画と整合性をとる必要はないと考える。

## ○地域 FM 放送局の活用について

(委員)

目標3「花のまちづくり推進」の「3. 花のまち PR 活動の推進」に書かれた「道と川の駅・花ロードえにわ」には、FM局 e-niwa のサテライトがある。恵庭にとって貴重なメディアで、市民と行政が一体となって、地元メディアを利用し、育て、まちづくりに活用することが望ましいと思うが。

(市)

FMは行政情報など色々な面で活用しており、今後の活用も考えている。情報提供については、色々なところに記載されているが、この部分もそうした表現が必要かもしれない。

(委員)

ぜひお願いしたい。総合計画の論議に、この財産を大事にする姿勢を織り込み、市民・行政一体となって大いに利用してもらいたい。

## ○コンパクトなまちづくりについて

(委員)

目標1に「市街地整備については、JR 恵庭・恵み野・島松駅を中心としたコンパクトなまちづくり」とあり、前期から変更した経緯を伺いたい。駅から離れたエリアの住民は不安を抱かないか。

(市)

地域懇談会などで都市計画マスタープランの見直しを行っており、これまでの一体化から3駅を中心としたコンパクトなまちづくりへと方向性を改めている。高齢化を迎えるにあたり、歩いて暮らせるまちづくりや公共交通のあり方の検討が必要で、現在エコバスによる3駅のつなぎ方等が検討されている。駅1km圏外は公共交通等でカバーする。駅を中心としたエリアから外れた地域がまちづくりに関係ないというわけではないが、人口減と高齢化を迎える中、外に広がるのではなく、ある程度地域に施設を集約していくまちづくりの考え方をここで記した。

(委員)

2006年にコンパクトシティ構想の先駆地である青森を視察し、非常に先進的な取り組みと見ていたが、昨年、主要な建物を運営する三セクが既に破綻していると聞いた。先駆的な取り組みにも良

い事例と悪い事例があるので、それらを加味しながら進めていくべきと感じた。

(副市長)

コンパクトなまちづくりで駅から離れた地域については、新交通システム、エコバスの強化やエコバス運行地域外は乗合タクシーなどでカバーしていく。こうしたものが連携してこうしたものが強化されると考えている。基本目標 4 でその議論もしていただきたい。

## ○人口について

(委員)

人口目標 76,000 人について、後期基本計画でどう取り扱うのか。都市計画マスタープランの数値や計画年次とのかかわりの中でどう整理するのか。

(副市長)

人口が全く目標に届いていない中で目標は目標として掲げていいのかという議論を市内部の策定委員会で行っている。開発やマスタープランの考え方でも、人口の議論を避けられない。第 3 回目くらいには、市内部で方向性を整理したものを皆さんに議論していただきたいと思っている。現時点では、人口をそのままにしておくわけには行かないだろうという内部協議をしている。

(委員)

都市計画マスタープランにコンパクトシティの考え方が盛り込まれ、第 5 期総合計画に反映されると考えている。前期の計画の変更を余儀なくされている部分は、議論を重ねておき、マスタープランに反映させ、第 5 期総合計画は、それらに基づいて第 4 期の延長線上の中で整理してほしい。

(副市長)

ばらばらな計画にならないように調整もしているので、あらためて提示したい。

## ○事業の費用対効果の見積もりについて

(委員)

基本構想において、事業別の費用対効果をどのように見積もっているのか。また、規模、重要性も分からない。

(副市長)

費用対効果を考えると、平行して実施計画作業をしていくのも一つの方法であるが、従来のやり方に縛られるわけではないが、計画の見直しをして、大まかな方向性が決まったら、それに対してどういう事業を当てはめていくのかという作業になる。審議会も後半になれば、ある程度のメニューを出せるだろうが、そのときに事業費の積み上げ、優先順位、年次計画を出すのは作業的には難しい。ただし、個別事業には、費用対効果の判断が事業実施時に求められる。今の段階では費用対効果を盛り込んだ事業選別まで行かないのが実態である。何らかの埋める作業は内部で早めて、皆さんの参考に

なるような資料提供をしたい。

#### ○公園緑地の利活用について

(委員)

目標4ー主要施策2「公園緑地の整備」の主な事業として、前期にあった「桜町多目的広場の整備」が削除されている。整備に一定の区切りがついたという認識だろうが、緑地の利活用方法については課題として残っているように思う。この部分は、利活用を含めた文言にしたほうがよいと思う。

(市)

公園緑地の整備だけでなく利活用が大切と思う。主な事業の中では表現的に絞り込んでいる関係もあり、利活用の表現がないが、文章表現の中で利活用面を含めた考え方にしていきたい。

#### ○ホームヘルパー養成施設について

(委員)

市内にホームヘルパー資格取得可能な施設はあるのか。

(市)

現在、市内にはホームヘルパー養成施設はない。

#### ○社共のボランティア登録者の活用について

(委員)

社会福祉協議会のボランティア登録している方の活用が十分でないようだが。

(市)

社会福祉協議会がボランティアセンターとなり、50団体登録されている。ボランティアには福祉計画や社共の実践計画策定にあたっての話をしたが、横の連携、活躍の場について登録者に浸透していない。登録していても1年間何も声がかからない方もいる。市が積極的に行うべきことを社会福祉協議会にお願いし、ボランティアセンターを設置し、今後も登録者の力を借りる意味からも、横の連携と活躍の場について、周知を図っていかなければならない。連携をとりながら進めたい。

#### ○民生委員への補助について

(委員)

民生委員は体力的・精神的にも重労働で、金銭的にも例えばお世話した人が亡くなったときに香典代を出すなど負担が大きい。民生委員への補助は施策の中に入っているのか。

(市)

民生委員には年間6万円弱の活動費が道から出ている。十分ではないが、なかなか個別に支給することができない。今年も11月末で民生委員の任期が終わり、各町内会会長に推薦をお願いしているところ。今すぐどうかなるものではないが、道との話があれば地元の声としてご意見を反映してい

きたい。

## ○介護者への支援について

(委員)

介護する家族への支援はあるのか。

(市)

金銭的にはごくわずかな額であるが市単費として残っている。家族間で介護者の負担を取り除くため、デイサービスなど介護施設の整備・充実などの基盤整備をしている。ショートステイも、例えば冠婚葬祭で介護者が自宅で介護できないときなどの場合など、要介護者を一時的に施設で預かるという基盤整備もしている。家族が悩みを打ち明けられる家族会のようなものは今のところ設けていない。

## ○知恵ネットバンク構想について

(委員)

知恵ネットバンクの構想はどうなっているか。

(市)

平成 20 年度から要綱を定めた教育委員会の生涯学習指導者登録制度では、資格、特技をもった 20 歳以上の方をインターネットで登録できる仕組みがあるが、残念ながら余り活用が無い。市長マニフェストの一つである知恵ネットバンクについては、現在、総務部、企画振興部、教育部、生活環境部の課長職以上の集まりによる検討で、20 歳以上の方々に地域で活躍してもらえる仕組みづくりをしているところだ。インターネットの操作が難しい高齢者などを視野に入れ、今秋の平成 23 年度予算作成時までに構想を策定したい。

(委員)

高齢者のインターネット操作は難しい。地域情報を把握する町内会がネットワークの拠点となるように行政として援助するなど、実現可能で実際に稼動する施策を考えてもらいたい。

(市)

その通りだと思う。提案のあった、制度の活用、登録者への情報提供、町内会協力の拠点づくりなどを含めた検討を今後行いたい。

## ○福祉・高齢者介護の対策について

(委員)

高齢者の介護の関連で、これからの取り組み方に関して提案したい。5 年前の審議会では、後期高齢対策などはなく、民間によるケアハウスなど札幌近郊で普及していた。現在、国の医療制度等も変わり、状況は逼迫している。後期基本計画では施策として改善がうたわれてはいるが、市として介護体制について更なる検討を望む。市の財政負担はあるだろうが避けて通らず、必要なら市民負担も提案すべきである。介護は現実の問題となっていて、働く場があっても仕事に専念できないなどの状況が

既に現れている。福祉・介護の状況が大きく変わってきているので、もっと踏み込んだ独自の組み立てが考えられないか。

(市)

当市でも高齢化の進行はすさまじい。次を見据えた対策を充実のため、内部でしっかり議論するので、会議でもご意見いただきたい。

## ○複合施設について

(委員)

「複合機能施設の検討」が「地域における子育て支援サービス」(p12)と「高齢者の社会参加と生きがいづくりの推進」(p26)の2箇所に出てくる。子どもと高齢者が集う施設を新たにつくる検討なのか。

(市)

黄金複合施設の整備にあたっては、子ども、高齢者を含めた世代間の交流をもっと含め、施設を効率的に利用し、財政的にもコンパクトに、そして皆が集えるようなという意味での複合機能である。黄金地域でそうした構想をたてて、これから事業に向かっていっているところであるが、これから当市に必要になってくるだろうということで、ここに掲載している。

(委員)

老朽化も考慮されているのか。

(市)

公共施設の維持管理や老朽化の問題がある。これからの恵庭市としてどう施設を持つべきかについて、内部で行革の形で取り組んでいる。総合計画で反映させていきたい。

## ○部局横断的な仕組みづくりについて

(委員)

これからの総合計画のあり方について考えていただきたい。世の中の殆どの総合計画は基本目標で分野が分かれ、主な事業で課の係の単位まで分かれているが、横断的に考える仕掛けを考えていただきたい。

例えば、基本目標1で「駅を中心にコンパクトなまちをつくっていこう」、基本目標2で「高齢者に住みやすい環境をつくっていこう」というのがあるとする。これはつながってくる話だ。駅の近くに歩いて暮らせる範囲でお年寄りが住めるような環境をつくっていく。1と2を一緒に考えれば、理想的なまちが考えられる。1と2がばらばらならば、「高齢者の施設はどこか郊外につくる、駅は駅で別の再開発を」となる。最後まで個別の事業がそれぞれつながるよう工夫してもらいたい。全てがつながるわけではないが、一緒に考えることによって効果が倍増することがかなりある。個別の事業の中身だけでなく、どれとどれをつなげると効果があるだろうか、というところまで考えていただく

と、総合計画本来のあり方に近づきましょう。

(副市長)

市役所内部の悩みもそこにある。黄金地域の複合施設の整備では機能を複合化させたために、複数の部局が関係している。物をつくる際には、どう機能していくのかが一番重要である。(世代間交流においては、)お年寄りのいる館と子どものいる館をつくっても意味は無く、世代間交流を実践する地域の皆さんと市の役割を個別の計画でリンクしないと無駄になる恐れがある。関係者と議論しているところだが、黄金地区の複合施設がモデルケースとして、新たな視点で取り組んでいるところだ。

### ○総合的な介護予防について

(会長)

目標 16 の 1 総合的な介護予防などの推進で「介護を必要としない状態を維持しながら」とあるが、どういうイメージか？

(市)

要支援 1 から介護 5 まで区分がある。元気な人から、要支援だが介護を要する状態になりそうな方々までを含めて介護施策を展開していく、という意味でこういう表現になっている。

### ○地域福祉の担い手の連携強化について

(副会長)

社共では、地域福祉ケアの実践計画を、各団体の意見を聞きながら策定しようとしている。これからの地域福祉は、市、社共、町内会、各福祉団体の連携強化とネットワーク化、互いのサポートと情報交換が必要である。一人暮らし高齢者を町内会がサポートしているが、老老介護の段階に向かい、継続性に不安がある。今後は、ボランティアの育成支援が必要である。ボランティアは増えてきている。先ほど活動の場が無いという話があったが、市民へ PR し、活用をつくらなければならない。町内会や地域コミュニティが壊れつつあるなか、ボランティアを行政、社共が連携してサポートしなければ、地域福祉は大変な状況になる。今度の地域福祉の計画にも、それらを課題として連携を含めて、総合的にやることをご検討いただきたい。

(市)

漁川左岸・右岸、島松、恵み野の町内会と話をしているが、地域力をいかに高めるかが地域福祉の向上につながる。施策を講じてもなかなか末端まで網羅できないので、その網羅できない部分を社会福祉協議会やボランティア団体や地域の方と一体となって超高齢化社会に踏み出していきたい。

## 7. 閉 会